

授業科目区分		科目名 [英文名]		単位	N	S
共通専門科目		レクリエーション論 [Recreation]		2		
授業形態		担当教員名			ナンバリング	
講義 アクティブ・ラーニング		福島 邦男				NSM-S2020
この授業に関係する資格						
ピアヘルパー、レクリエーション・インストラクター、初級パラスポーツ指導員、公認スポーツ栄養士、スポーツ指導者等共通科目、アシスタントマネジャー、アスレティックトレーナー、子ども身体運動発達指導士、中高老年期運動指導士						
学位授与方針（ディプロマポリシー）との関連						
○	豊かな人間性（広い視野、深い思考力）			健康づくりの実践的指導能力		
	食、栄養科学の専門的知識		○	健康生活の知識と技術の修得		
	健康管理の指導技術の修得		○	実社会に役立つ能力		
	運動、スポーツ科学の専門的知識		○	社会に貢献できる実践力		
キーワード						
レクリエーション・レジャー ・ 労働と遊び ・ 遊びと人間文化						
授業の目的と概要						
レクリエーションが必要とされてきた歴史・社会的な背景について学び、生活における生きがいづくりとしてのレク支援活動を理解する。ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキングについての知識を深め、障がい形態別のレクについても学ぶことで、豊かな人間性を備えたレクリエーション支援者となることを目指す。						
学習の到達目標						
レクリエーションの基本原理と意義を応用したレクリエーション支援ができる。コミュニケーションをとりながらグループワークに臨み、レクリエーションの理論を活かして、楽しさの時間を創造できる。						
回	テーマ		授業内容			AL
1	授業概要 用語の定義		用語としての「労働 遊び 現実世界 非現実世界」			
2	労働と遊び		レジャー、レクリエーションの位置付け			
3	レクリエーション・余暇の現状と課題		余暇と自由時間、レクリエーションゲームについて			○
4	レクリエーション運動の歴史と概念		砂場づくり運動 遊び場づくり運動 厚生			
5	レクリエーションの変遷と制度		戦後から現代			
6	楽しさを通じた心の元気づくり		アイスブレイキングについて			○
7	地域のきずな		コミュニケーションと関係づくりについて			
8	レクリエーション支援		ホスピタリティトレーニング コミュニケーションワーク			
9	集団に対するレクリエーション支援		グループワーク 仲間づくり レクリエーション支援者の役割			○
10	障がい者のレクリエーション		ノーマライゼーションと身体障がいの種類について			
11	みんなのスポーツ、身体障がいの理解		デフスポーツ、ユニバーサルスポーツと身体障がいの種類について			
12	福祉レクリエーション 1		身近なレクリエーションと知的障がいについて			
13	福祉レクリエーション 2		身近なレクリエーションと精神障がいについて			
14	レクリエーション活動中の事故と責任		リスクマネジメント ひやりとした体験の話し合い			○
15	これからのレクリエーション		講義で取り上げたレクリエーション理論のまとめ			
教科書及び参考図書						
参考図書：楽しさをとおした心の元気づくり（財）日本レクリエーション協会、レクリエーション支援の基礎（財）日本レクリエーション協会 そ の 他：必要に応じて資料を配付する。						
準備学習・事後学習						
準備学習（週 2 時間）：授業のキーワードとテーマに関する情報（新聞、雑誌、インターネット等）を入手し、毎回のミニレポート（提出課題）に生かせるように目を通しておく。 事後学習（週 2 時間）：毎時間の資料は保管しておき、事後学習で活用できるようにしておく。						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
フィードバックとして、ミニレポートへの返信等で前回授業の内容や質問への解説を行う。オフィスアワーでも適宜対応する。						
成績評価の方法・基準						
毎回のミニレポート 70% 課題・提出物 30%						
関連科目						
受講上の注意						